

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

(1) 年次学術総会の開催

毎年9月～10月に開催、5000名近くの参加があり約2000題の演題発表が行われ、活発な学術的討論が展開されている。2021年で第80回を迎える。また、2016年からは、患者団体と協働でSSPプログラムも継続して開催している。

(2) 機関誌『Cancer Science』の発行

2014年にフルオープンアクセスのオンラインジャーナルとしてマンスリーで発行。順調に国内外からの投稿も増え、インパクトファクターも2014年の3.523から、2020年は6.716に上昇している。

(3) 年2回市民公開講座の開催

毎年、春と秋の2回、参加料無料にて市民公開講座を開催し、一般市民向けに分かりやすく最新のがん研究やがんの治療・診断等に関する情報を提供している。

(4) 米国癌学会と合同会議、カンファレンスの開催

2016年2月、2019年2月に米国ハワイにて、日米癌合同会議を開催。2016年7月千葉県舞浜、2018年7月京都にて、JCA-AACR ジョイントカンファレンスを開催。

(5) 若手の会の開催

2020年2月に2泊3日で「日本癌学会第1回若手の会」を開催。評議員より推薦の100名近くの若手研究者が集い、研究発表および交流会を行った。

b. 当該領域における国際的な役割

日本癌学会は以下のようなイベントを通じてがん研究の国際連携に貢献を行ってきた。

(1) 米国癌学会（AACR）との連携

米国癌学会（AACR）とは長きに渡って親密な交流があり、これまで3年ごとに11回にわたりハワイにおいて日米癌合同会議を行い、情報交換を行ってきた。また毎年開催される日本癌学会学術総会およびAACRの総会においてJCA-AACR ジョイントセッションが設定され、がんの基礎研究、トランスレーショナル研究、そして臨床研究における先進的なテーマについて継続的に議論が行われている。別に隔年JCA-AACR ジョイントカンファレンスを日本で開催し、多くの海外の研究者を招いて特定の臓器腫瘍に関して集中的に議論を行っている。他、2021年9月Precision Medicineに関する最先端の知見を共有し、共同研究を促進する目的で、新しくJCA-AACR Precision Cancer Medicine International Conferenceを合同で開催、今後隔年での開催を予定している。

(2) 学術総会における国際セッション

毎年開催される学術総会では、第66回大会（2007年）より国際セッションとして、3日間の会期中に12のセッション枠を設け、アジア・オセアニアを中心に海外の数多くの研究者に参加して頂き、全て英語にて実施している。このセッションによってアジ

ア・オセアニアの研究者の参加が増加した。

- (3) 学術総会における国際対がん連合 (UICC) セッション
毎年開催される学術総会において、UICC とのジョイントセッションを挙行し、UICC の活動を支援してきた。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

- (1) 研究者・医療関係者へのがんに関する新たな情報の発信
- (2) がんの予防、診断、治療に関する一般市民への情報発信と啓蒙
- (3) 行政に対するがん対策に向けた提言

d. 学会運営上留意している点

(1) 一般社団法人への移行

日本癌学会の社会的役割、存在価値の更なる向上を目指し、多様化する周辺環境の要請に柔軟かつ迅速に対応可能な学会の多機能化と高度化を実現するため、一般社団法人への移行を 2021 年 1 月に行った。

(2) 基礎—臨床—一体型のがん研究フォーラムを目指す

日本癌学会はがんの基礎的研究者の学会と考えられがちだが、がんは既に基礎と臨床が一体化して挑戦すべき疾患であり、実臨床を行っている医療者の学会への参会を推進している。

(3) 若手のがん研究者の育成

次世代を担う若手研究者の日本癌学会への参加を励起するため、「日本癌学会若手の会」、学術総会における若手研究者ポスター賞などを実施する。

(4) 女性がん研究者の育成

女性がん研究者の育成を目指して女性科学者委員会を発足、女性が活躍できる学会づくりを目指し、毎年学術総会において女性科学者賞受賞者 1 名の表彰と講演を行っている。

II. 日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載してください。

(1) がん関連 3 学会（日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会、日本癌学会）との連携活動

1. 次世代シーケンサー等を用いた遺伝子パネル検査に基づくがん診療ガイドライン発行
(第 1 版 2017 年 10 月、第 2.0 版 2020 年 3 月、第 2.1 版 2020 年 5 月発行)
2. ゲノム医療推進タスクフォース発足 (2017 年より継続して開催)
各種要望書や提言の提出、書籍発行等
3. 新型コロナウイルス対策ワーキンググループ発足 (2020 年 3 月より活動開始)
新型コロナウイルスとがん診療に関する Q&A の作成、公開

(2) 糖尿病と癌に関する合同委員会活動

日本癌学会、日本糖尿病学会、日本癌治療学会、日本臨床腫瘍学会で『がん治療中の糖尿病管理に関する調査』実施し、その結果について同委員会報告論文として糖尿病学会は「糖尿病 / Diabetology International」に、日本癌学会は「Cancer Science」に掲載を行っている。